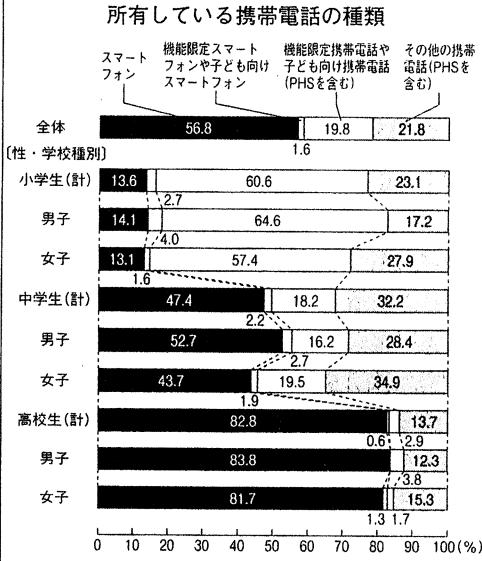
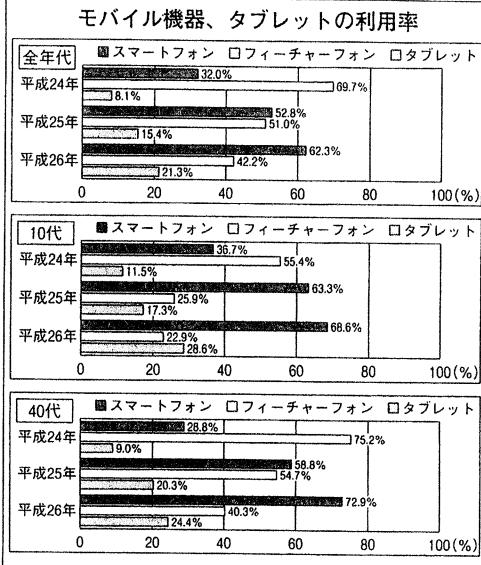


中学生のAさん、Bさん、Cさんの三人のグループは、「総合的な学習の時間」に青少年の携帯機器との関わり方などについて調べ、話し合いをしている。次のグラフ1、グラフ2、グラフ3と文章は、そのときのものである。これらについてあととの問い合わせに答えなさい。

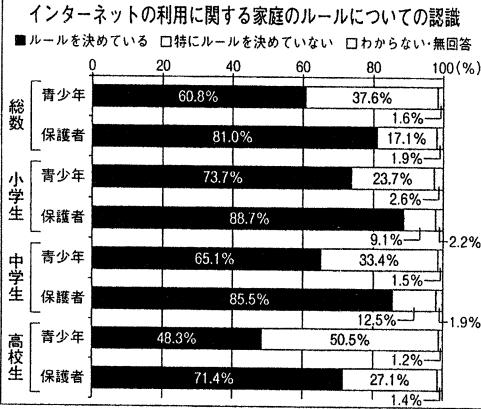
グラフ1



グラフ2



グラフ3



(グラフ1)

内閣府『平成25年度 青少年のインターネット利用環境実態調査』から

(グラフ2)

総務省『平成26年度 情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査』から

(グラフ3)

内閣府『平成27年度 青少年のインターネット利用環境実態調査』から

※ フィーチャーフォンは、通話機能にいくつかの機能が付与された従来型携帯端末のこと。

Bさん 本日は、青少年の携帯機器との関わり方について考えてみたいと思います。

Cさん グラフ1は、携帯機器を所有している小・中・高校生を対象に、その機器の内訳を調べたものです。これを見ると、Iということが分かります。

Cさん さらに高校生では、スマートフォンの所有者が増えていますね。中学生、高校生の多くは、自分専用のスマートフォンを使ってインターネットやゲームなどを利用できる環境になると考えられますね。私も、つい時間を忘れてゲームを楽しんでしまい、後悔することがあります。

Bさん 眠眠時間や学習時間に影響するほど使いすぎてしまうとなると問題ですね。携帯機器を使う場合、一日の使用時間を決め、節度のある使い方をすることが大切だと思います。

Cさん グラフ2は、スマートフォン、フィーチャーフォン、タブレットの利用率を、すべての年代と、10代、40代について示したものですね。40代は、私たちの親の世代にあたりますね。これを見ると、これが分かります。また、平成二十五年以降は、10代でも40代でも、スマートフォンの利用率が半数を超えており、スマートフォンはかなり普及していると言えます。実際、私の両親

も使いこなしています。

日さん、一方、クラブ3はインターネットの利用に関して家庭でルールを決めているかどうかについて、青少年の認識と保護者の認識を示したものですが、ルールを決めていると認識している青少年の割合は、小・中・高校生のいずれも、保護者の割合を下回っています。

Aさん つまり、親はルールを決めていると思っていても、子どものほうはそう思っていない場合が多いことですね。

（つづく） 携帯機器をなくる現象の変化は激しく、それとともにインターネットに関連したトラブルも多数起きています。こうした中で、ルールに対する親子の認識の差が広がっている点は気になります。一日の使用時間を決めるだけではなく、携帯機器との関わり方全般について家庭内で話し合いい、ルールをきちんと決める必要があると思います。

Aさん ここまで、青少年の携帯機器との関わり方にについて話してきましたが、私たちが考えなければならぬことについては、Bさん、Cさんがまとめてくれていたように思います。それらをふま

「携帯機器を使う場合は、

と「う」とこなります。

本日の話し合いを参考にしながら、私たちも携帯機器と適切につき合っていきましょう。

(ア) 本文中の □ I □・□ II □ に入るるものとして最も適するものを次の 中からそれぞれ一つずつ

選ひ　その番号を答えなさい。

い。

(1) 中学生全体では、その他の携帯電話を所有している人の割合が小学生全体のほぼ二倍である
2 スマートフォンの所有者は、中学生では男子のほうが多く、高校生では女子のほうが多い
3 中学生全体では、スマートフォンの所有者がそれ以外の携帯電話の所有者とほぼ同率である
4 スマートフォンの所有者は、小学生では四割程度だが、高校生ではおよそ八割に上る

II 1 10代では、平成二十六年からファイーチャーフォンの利用率が急激に減った

2 10代では、平成二十五年にタブレットの利用率がファイーチャーフォンの利用率を抜いた

3 10代でも40代でも、平成二十六年にはファイーチャーフォンの利用率が最下位になつてている

4 全体では、平成二十五年にファイーチャーフォンとスマートフォンの利用率が逆転した

本文中の「…………」に適する「Aさん」のことばを、次の(1)、(2)の条件を満たした一文で書きなさい。

(1) 書き出しの 携帯機器を使う場合は、 という語句に続けて書き、 文末の大切である。とい

う語句につながるように書くこと。

(2) 書き出しと文末の語句の間の文字数が六十字以上七十字以内となるように書くこと。